郡山城跡公園整備事業

大和郡山市では、天正６年に筒井順慶が入部して以来、豊臣秀長が築城をすすめ、江戸時代を通して大和支配の中心であった郡山城跡を歴史公園として整備する事業に取り組んでいます。

大和郡山市は、奈良盆地の北部に位置し、人口約８万５千人をかぞえ、金魚養殖、トマトやイチゴ、いちじく、赤膚焼きなどの特産品と、寺社・仏閣、歴史的建造物などが多数所在する、歴史資源が豊富な田園都市を形成しています。また、近畿圏内での交通結節点として交通の便が良く、昭和工業団地を中心に製造物流拠点の役割も果たしています。

現在、郡山城跡の周辺では、庁舎の建て替えをはじめ、近鉄郡山駅周辺地区のまちづくり事業が進められており、アフターコロナを念頭に、観光振興の面でも集客力の強化に取り組んでいます。これらの取り組みを通して、全国金魚すくい選手権大会をはじめとした地域の文化力をさらに高め、郡山城跡・環濠集落・寺社仏閣などの観光資源を活用した、「奈良に郡山あり」と言われるような、オンリーワンのまちづくりを進めるものです。

郡山城跡公園整備事業

郡山城跡は、大和郡山市の中心市街地に位置します。中世・近世に形作られたお城の中心部分がほぼそのままの形で残っており、天守台展望施設は奈良盆地が一望できる観光スポットになりました。

現在、オレンジのエリアを郡山城跡公園に拡張するための事業を進めています。整備面積約５ヘクタールのうち４ヘクタールは、長年、高校の敷地として使用されており、一般の立入はできない

お城のエリアでした。高校の廃止をきっかけに、大和郡山市が土地を取得して、西公園と一体的に公園整備を進めていきます。また、県史跡から国史跡へのランクアップにより知名度を高め、さらなる来場者の増加を目指します。

これらの取り組みで、令和３年３月に再建された”極楽橋”とともに、郡山城跡の回遊性が大きく向上し、お城めぐりのコースが充実するだけでなく、広大な芝生広場や西公園は市民の憩いの場、厩跡広場・屋敷跡広場はイベントスペースとして利用されることを期待しています。

コンセプト

コンセプトとするのは、お城の縄張りを基本とした、天守台をどこからでも眺められる広場の整備です。

スケジュール

令和３年度から馬場先門園地の整備に着手し、厩跡広場、屋敷跡広場、麒麟広場、西公園と段階的に工事を進め、令和６年度末の公園供用開始を予定しています。

企業版ふるさと納税のご支援を

近鉄郡山駅から約５分という好立地、奈良県では唯一のまちなかにあるお城、織田・豊臣期につくられたお城、お地蔵さんが積み込まれた石垣、謎につつまれた天守閣など、話題に事欠かない歴史公園の整備に、ふるさと納税のご支援をお願い申し上げます。